

シニア団体活動支援事業は、元気な高齢者が地域の活動に参加するきっかけをつくり、高齢者の社会参加と自主的活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを目的としております。この広報誌では、年齢を感じさせず、いきいきと活動している本事業登録団体をご紹介します。

片平ゆうラージボール卓球クラブ

市町村	郡山市	会員数	29名
連絡先	024-923-11501(代表宅)	年齢構成	60歳～89歳
活動内容	卓球(ラージボール)	活動場所	郡山市片平ふれあいセンター 毎週月曜日 (原則、センター使用可能な日) 午前9時～12時
代表者	大野 敬(おおのたかし)	会費	2,400円/年間 ※4月に一括納入

〈ラージボール(卓球)を通じて〉

平成9年に、ラージボールを通じて親睦を図り健康寿命の延長を目指そうと立ち上げられたのが本会である。ラージボールとは通常の卓球で使用する球(直径40mm)よりも大きな球(直径44mm)を用いて、基本的には通常の卓球と同じルールだが球を大きくしたこと

〈ラージボールが生み出す親しみやすさ〉

会員の皆さんが口を揃えて「会長の人柄によって続けられている」と話される。ラージボールが親しみやすいスポーツであることに併せ、会の方針として皆で楽しむことを第一としており、例えば練習開始後の30分間は会員全員が当たるようサイクル練習の時間を設ける工夫などがされている。高齢であるがゆえ身体の都合を聞きながら、無理なく・楽しく・笑顔で続けられることが本会の良さであると感じられた。入会・問合せについては、代表まで。



今回お話を伺った皆さん。最前列左から事務局長の小山征一郎さん、会長の大野敬さん、副会長の齋藤弘さん。



自分のペースで楽しく続けることが最も大切とされている。



練習の時間、会員全員が楽しく無理なく続けられるよう、会長による的確な指導もある。

磐梯町食生活改善推進員会

市町村	磐梯町	会員数	33名
連絡先	磐梯町保健福祉センター 0242-173-3101	年齢構成	52歳～78歳
活動内容	調理	活動場所	磐梯町保健福祉センター内
代表者	鈴木正子(すずまきこ)	日時	毎月1回(第3又は第4木曜日) 定例会 ほか

〈料理を通して育む町民の健康〉

「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、住民の健康づくりを図るために食育活動をしている会である。平成14年にボランティア化した後も、磐梯町の任意団体として町の事業や会独自の事業などを年間通して行っている。毎月1回の定例会のほかに、乳幼児をもつお母さんを対象とした離乳食教室や男性料理教室など、子供から高齢者に至るまで幅広い年齢層を対象に料理を通じた健康づくり活動を行っている。

〈ふるさとへの愛情と共に〉

12月下旬に「おやこ料理教室」が行われた。計31名の参加者が各班に分かれ「レシジョン寿司、照り焼きれんこんバーグなどを作った。こらー早めに味見しちゃってるのはだれだー」など、時々叱られながらも子供たちは会員の皆さんと楽しそうに調理をしていた。その土地で暮らす町民が自ら地域の健康を守っていきいたいという思いのもと、会員の皆さんの温かい雰囲気にもまれた料理教室であつた。入会・問合せについては、町の保健福祉センターまで。



デコレーション寿司を作るため子供たちは鮭を生懸命はぐしていた。



料理後の試食の時間。「今日の料理はどうだった？」など楽しくおしゃべりしながら食事がすむ。



会長の鈴木正子さんは、本会に携わり10年以上経つ。きっかけはもつと食の知識をつけたいという思いからだった。

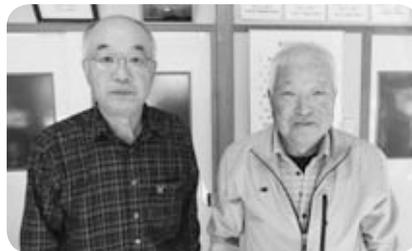
元気な町内会の活動報告 (高齢者支え合いコミュニティ支援事業)

福島県では平成28年度から、元気な高齢者が身近な地域で社会活動に参加するきっかけをつくり、健康でいきいきと生活している町内会の取組を支援しています。本年度の支援団体のうちから、いくつかの町内会をご紹介します。

毛戸(もうと)元気高齢者を作る会

〈毛戸元気高齢者を作る会について〉

毛戸地区は川内村東部にあり東京電力福島第一原発から20キロ圏内にある。平成26年、28年に避難解除となったが、若い世代は殆ど帰還しておらず(1世帯のみ)高齢化率も高い。ただ、小さい地域であるがゆえ親戚のような和気あいあいとしたい雰囲気があり、震災以降も相互の交流・親睦をより深めていきたいという機運がある。



(右) 会長の小林幹夫さん、(左) 事務担当の高野政義さんにお話を伺った。

〈町内会事業をととして〉

仕事をしている人も多い中で、取材日は会員全体の8割程度の参加があった。この参加率の高さが会員の意識の表れであり、自分たちの手でこの地域を改めて動かしていこうという雰囲気があると会長は話されていた。地域の防災については、若い人が避難しているため地域に消防団員が少なく、また近くの消防署から当地区まで車で20分かかることも



取材日は富岡消防署川内出張所の署員が防災に関する話をした。

あり、より地元の安心・安全のため地元民の手で頑張っていきたいという意識が感じられた。

市町村	川内村		
連絡先	(川内村役場 保健福祉課) 0240-38-2941		
町内会費	1,200円/年		
代表	会長 小林幹夫 (こばやしみきお)		
加入世帯数	18世帯	所属人数	25名



防災の話の後、署員の指導による消火器訓練が行われた。消火器購入に関する話から、その使い方まで様々な質問が出ていた。

昭和村小野川区会

〈昭和村小野川区会について〉

昭和村は福島県の西部に位置し、昭和村全体においても主要産業となっているかすみ草の栽培や林業を営んでいる世帯も多い。また昭和村は超高齢過疎地であり、小野川区においても同じ課題を抱えている。その一方でこの地域では、千年以上も続いた「住民同士が支え合う温かい地域」という集落の歴史が色濃く残っている。だからこそこの地域が自分たちの代で終わらないよう、本地区においてもこの問題に取り組んでいる。



区長の渡部忠雄さんにお話を伺った。

〈浪江町との連携から生まれる昭和村の未来に向けて〉

まずは若い世代のUターンを目指す昭和村にとって、今コミュニティの再興を目指す浪江町の現状と重なる部分も多い。福島県内同士、お互いの地域が学び合う意義は大きいという考えのもと、取材日は小野川区の町民が実際に浪江町を訪れて視察や意見交換を行った。同じ生活を送るのであれば将来へ繋げられるよう今この瞬間を大切に生きていくことが、ここにいる者の責務であると区長の渡部さんは話されていた。昭和村も浪江町も将来に向けて動き出している。

市町村	昭和村		
連絡先	(昭和村役場 保健福祉課) 0241-57-2645		
町内会費	1,500円×12か月 (18,000円)		
代表	区長 渡部忠雄 (わたなべただお)		
加入世帯数	43世帯	所属人数	104名



11月下旬に浪江町で花卉栽培を行っているNPO法人J-INを訪れ、栽培の様子を見学したり意見交換を行った。



11月に下郷町にある大内宿の代表を講師として呼び、地域づくりについて学んだ。